

スポーツとメディアの未来のために

Towards a better relationship between sport and the media

1K04B801-0

藤田 啓輔

指導教員

主査 志々田文明先生

副査 リー・トンプソン先生

序

1) 研究動機

私は大学卒業後、進路としてスポーツ・メディア業界に進む。現在は問題だらけのスポーツ界が今後どこに向かっていくのか、その舵はメディアが握っており、メディアがスポーツに与える影響は、良くも悪くも、直接的にアスリートに伝わる。スポーツの魅力はアスリートの肉体・精神に依拠しており、彼らの真摯な努力を我々は決して妨げてはならない。スポーツ・メディア業界の一員となる自分が、今後、スポーツとアスリートに対して何ができるのか、何をすればよいのか。こうした問題意識から、私は、以下の目的・課題を設定した。

2) 目的・課題

本論では、スポーツ界の構造的な欠陥を見出し、スポーツとメディアの望ましい関係へ向けて、改善方法を考察する。この目的を達成するために、以下の課題を設定する。

課題 1: プロスポーツのビジネス構造を解明する。
(本論文構成 I)

課題2: スポーツとテレビとの関係性を、2006 年に開催された世界バスケットと世界バレーの比較から明らかにする。(本論文構成 II・III)

課題 3: 上で明らかになったことに加え、スポーツ側、メディア側、それぞれの視点を踏まえて、スポーツとテレビが抱える問題点について考察する。

I. プロスポーツのビジネス構造

I 章では、スポーツを取り巻くステークホルダーの利害関係から、国内のプロスポーツ界のビジネス構造を図示し、その上で現在に至るまでのスポーツとテレビの関わりを放映権料という切り口から研究し、スポーツとテレビがいかに密接な関係にあるかということを明らかにした。

II. スポーツとテレビの現状

II 章では、スポーツとテレビの現状を明らかにするために、2006 年に TBS テレビが地上波独占中継をおこなった「2006 年 FIBA バスケットボール世界選手権(世界バスケット)」と「2006 バレーボール世界選手権(世界バレー)」の 2 つの大会を取り上げ、大会資料から 2 つの大会が規模としていかに似ているのかを見出した上で、実際のメディアでの扱われ方と大会収支から、2 つの大会に結果的な差異を示した。

III. スポーツとテレビが抱える問題点

III 章では、インタビュー調査から、スポーツとテレビが抱える問題が「スポーツとメディアの互いの存在認識の行き違い」に端を発していることを明らかにした。

前章で扱った世界バスケットの資料は、大会招致やテレビ局内部のモチベーションを高める為の「建前」であり、聞き取り調査によって初めて当事者の「本音」に触れることができた。スポーツとテレビの現状を知る為に重要なのは言うまでもなく「本音」の方であり、当事者からの聞き取り調査をしたことによって、よりリアルな関係性、すなわち「スポーツがテレビに支配されている現状」を明らかにすることができた。そして、現状のこの関係が持続することでスポーツ界、メディア界双方の未来にもたらされるであろう悪影響を提示した。

IV. スポーツとメディアの未来へ向けて(結論)

IV 章では、スポーツとメディアのより良い未来に向けて、利害関係の中で不利な立場にあるスポーツ界に求められる努力を、スポーツチームの経営戦略の面から述べた。また、現在の構造的な問題を解決する為にはスポーツを中立的な立場から批判する新たな組織が必要であると考え、その海外事例としてフランスのスポーツ紙「レキップ(L'Equipe)」を挙げた。レキップのような機関が日本のスポーツ界に誕生し、機能することで、メディアを一種の原動力とする外在的な力によって転がり続けている日本のスポーツ界において「ブレーキペダル」の役割を果たし、スポーツが「メディアのコンテンツ」としてだけではなく、自律的な文化態として発展していくことが可能になると考える。

結語

研究動機に立ち返ると、筆者にとって本当に重要なのは単に研究結果を導き出すことではなく、スポーツ・メディア業界の一員になる者として、本論の研究結果を元に自分が今後すべきことを見出すことにある。スポーツに対して経済力の強さを後ろ盾に利害関係の中で優位な立場にあり、傲慢になっているメディア界の特性と戦略をスポーツ界が正しく認識し、メディアに対し適度な距離感を保つことによって、ますます拍車がかかるスポーツのテレビサイズ化と、その先にあるスポーツの本質的部分の破壊に歯止めをかけることが可能となる。スポーツと、メディアを中心とした多くのステークホルダーの中で、ジャーナリズムの属性である中立性を維持する役割を果たしたい。